

## 私の見てきたAMDDの10年 ～初代事務局長として～



### 初代事務局長 豊田 雅孝

AMDD10周年おめでとうございます。私は2003年7月から2012年3月までの9年間事務局長を務めさせていただきました。退職して既に7年が過ぎ、今はもっぱら地域のボランティア活動に専念しておりますが、私の人生の中で最高に楽しく充実した時間を過ごさせていただきました。

まず、印象的だったことは、同じ会社の先輩でもあった前任者の平野靖さんに連れられて当時のケイミン・ワング委員長のところに採用の面接に伺った時のことでした。エドワーズライフサイエンス(株)社長 兼 在日米国商工会議所医療機器・IVD小委員会委員長のワングさんは私より15歳も若い方でした。しかし、地位を笠に着ることもなく、無駄なことは少しも言われず、にこにことして、さわやかな人格者だと直感しました。ワングさんが言われた「国民の健康を守る仕事ですからね」という短い言葉に「ああ、これは崇高な使命を帯びた仕事なのだ」と感じました。同時に、ここは年齢に関係なく、能力のある人が正しいと思うことを思い切りできる職場なのだ、是非ここで働かせていただきたいと思いました。これらの思いは、9年間を通じて変わることなく私を駆り立ててくれました。

在職中の大きな出来事として、10年前にAMDDがそれまで在籍していた在日米国商工会議所(ACCJ)の小委員会から独立して米国医療機器・IVD工業会(AMDD)に生まれ変わりました。ACCJは航空機、金融、農産物などあらゆるアメリカの産業を代表する巨大な組織です。その大きな広がりを持つ組織を円滑に運営していくためには、全ての対外的

な文書を事前に検閲するという厳しいルールがありました。そのような状況の中でも、医療機器・IVD小委員会は頻繁に厚生労働省などへの文書の提出が求められ、日本語の文書を都度英語に訳してACCJのチェックを受けなければなりませんでしたが、時には明日の午前中までに持参するようにとの官庁の急な要求もあり、現実的には難しい局面が多々ありました。ACCJの傘下にいる安堵感と恩恵は計り知れないものがありましたが、関係各方面と相談した結果、迅速性と効率性のために独立したほうが良いだろうということになり、理事会で決定いたしました。準備に当たっては、ACCJ、厚生労働省、アメリカ大使館、先進医療技術工業会(AdvaMed)、関係各業界団体などにご説明に上がると同時に、会員各社1社1社を訪問して丁寧にご説明しご理解をいただきました。新団体への移行にあたっては、新しい団体名をどうするか、ACCJ医療機器・IVD小委員会として集めた会費残高のAMDDへの移管をどうするかなど難しい問題もありましたが、専門機関を活用し、ACCJのご協力を得て無事に終えることができました。

あれから10年、今なおAMDDが世界最先端の医療技術を日本の患者さんに届けるという使命を果たしながら、医療機器・体外診断用医薬品(IVD)の重要な業界団体として発展し続けている姿は喜びに堪えません。これから先の10年間も、いや、何十年間も国民の健康を守りながら繁栄し続けていかれることを願ってやみません。



AMDD設立後最初の理事会(2009年4月)